

# 「確かな学力を身に付け」させるための国語科における基礎基本について

## 1 研究主題（学校課題）との関連

国語科においては昨年度からの学校課題「確かな学力を身につけ…」という部分に着目し、基礎基本の充実を図れる学習指導に努めてきた。今年度も国語科においての基礎基本の力とは何かを検討しながら、国語科での3領域1事項（「学習指導要領」）に基づいて研究を進めているところである。

## 2 国語科での基礎基本…（3領域1事項）の中から

「A 話すこと 聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」〔言語事項〕

「A 話すこと 聞くこと」 \* 通年での学習場面（以下同じ）

学年	身に付けさせたい力	力を付けさせる場面	定着を図るための方策
1学年	【話し方・聞き方の基本の習得】 適切な声量で話す。 話に表情をつけて話す（間・速さ・緩急・強弱等） 事実を正確に聞き取る	* 教科書の音読（一斉・個人） * 鏡点を示した上で、話す・聞くの相互評価をする。 * 教師・生徒の発言をノートに正しく書き取る。	* 毎授業で繰り返し行う。 * 日頃の返事・発言・発表の際にも注意させる。 * 授業中のポイントや必要事項に対しては、適宜メモをするようアドバイスをする。
2学年	【根拠からの意見を述べる】 根拠（事実）をもとに意見を述べる。	日常生活での体験や経験からの2・3分程度のスピーチをする。 ・討論会「ディベート」を開く	* 「書くこととの関連を図り、「書く」「話す」「聞く」と連携させる。
3学年	【論理的な話し方の工夫】 多くの意見を聞き、自分の考えに取り入れて話す。	話し合い中心の授業を展開し、生徒同士の意見交換の場を設定する。（「パ・リュ・イスカッシュ・ヨン」などの討論）	* 毎授業で自分の考えを持たせると同時に、生徒同士の意見もしつかり聞きとらせる態度を身に付けさせる。

この領域において、3年間を通してもっとも生徒に身に付けさせたいと考える力は、聞き手に「分かりやすく伝える」ための「話し方」である。つまり、「筋道をたてて順序よく話ができる」力である。

## 「B 書くこと」

	身に付けさせたい力	力を付けさせる場面	定着を図るための方策
1学年	【事実を順序よく書く】 「5W1H」の要素を取り入れて文章を書く  事実を分かりやすく説明するための文章を書く。  自分の意見を分かりやすく書く。	・授業中に5W1Hの要素の入った例文を示し、抜き出させる。 ・実際200字程度の作文を書く。  書き方の「型」をいくつか示し、練習をしてから、文章を書き、相互評価をする。（「空間」「時間の経過」「比較」等の場面に応じた説明文の書き方の「型」を知る。ワークシートを用意し、練習させる。）  自分の意見を整理するために「構想メモ」を作り、その後文章を書く。	* 読み手がいることを絶えず意識させて書くよう適宜指導する。  1つの題材を指定し、定期テストの作文問題として出題する。

2学年	<p>【自分の意見を書く】 情報（根拠）を収集し必要な事柄を的確に書く。</p> <p>自分の立場を明らかにして意見文を書く。</p>	<p>ハ。ソコン・図書・新聞・アンケート・取材等で情報を集め、それらを根拠として文章（レポート）を書く。</p> <p>立場を決め、討論会「ティベート」を行った後、400字程度の意見文を書く。（討論会の際は、メモをとらせ、意見文を書く際の参考とする）</p>	定期テストへの出題 「課題作文」 (160字~200字程度)
	<p>【考え方を主張する】 話し合いをもとにして自分なりの主張を論理的に書く。</p>	話し合い（「ハ。ネルティスカッション」等）で出された自分以外の意見を取り入れながら、論理的に文章を書く。	定期テストへの出題 (同上)

この領域は、「話すこと 聞くこと」との関連を図りながらの実践が効果的であると考える。3年間を通して身につけさせたい力は前述の「A」と同様、書く題材に応じて「筋道を立てて書く」 = 「論理的な文章が書ける」力を付けさせることである。

### 「C 読むこと」 ~ 3年間を通して ~

	詩・短歌・俳句	物語・小説	説明文・評論文	古典
身に付けさせたい力	音読してリズムを味わう。 形式・表現技法を知る。	場面の展開を理解する。 (「意味段落」) 主題に迫れる。	形式段落ごとのつながりを理解する。（「接続語」に注目させる） 事実と筆者の考えを区別して読みとる。	歴史的仮名遣いを知る。 音読し、古語の響きを味わう。
場面	授業中、群読や個人での音読をする。 国語便覧を使用し確認する。	意味段落を考えて読む。 初発の感想・読後の感想を書く	文中の「接続語」に注目させる。 形式段落毎に要約し、文章全体の構成を捉える	現代的仮名遣いとの違いを発見させるよう範読をする。 音読をしてリズムに慣れ親しむ。

定着を図る方策として、定期テストへの出題と共に、日頃から活字の文章に親しませる「読書」の推奨をしている。そこから豊かな想像力・表現力が身に付くと考えられる。

### 〔言語事項〕 ~ 3年間を通して ~

	身に付けさせたい力	身に付けさせる場面 及び 定着を図るための方策
漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 漢字の音と訓</li> <li>* 国語辞典・漢和辞典の使い方</li> <li>* 漢字の成り立ち</li> </ul> <p>読み</p> <p>* 中学校終了までに常用漢字（1945字）の漢字</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 每時間の授業で確認する。（ワークの漢字の読み・書き 国語便覧の使用）</li> <li>* 每授業で分からぬ語句や漢字を辞書で調べる習慣づけをする。（机上にいつも2冊の辞書を用意しておく）</li> </ul> <p>* 小学校での（1006字）を含め、当該学年での新出漢字の読みと書きの「漢字豆テスト」を1教材終</p>

	<p>の読みを習得すること。 書き * 学年別漢字配当表にある（1006字）の漢字を書けるようにする。</p>	<p>了時・または週4時数の学年（2・3年）は毎時間授業始めに実施し（10問～20問程度）状況に応じて再テストを行う。定期テストに読み・書き10問程度出題し、定着を図る。（「豆テスト」も「定期テスト」も単語ではなく熟語や短文の中での出題とし、文章や文脈の中での意味を考えさせるようにする。）</p>
文法的 事項	<p>「文の成分」の5つが分かる。 単語の文中での働きが分かる。 活用のある品詞があることを知る。</p>	<p>* 文中の言葉の働きを理解できるよう、まずは簡単な短文を提示して言葉同士のつながりや関係を理解させるようにする。 * 文章中には用言や助動詞が活用されて使われていることをさまざまな例文から、理解させる。 * 定期テストへの出題で定着を図る。 * ワークでの練習問題に取り組ませる。 * 活用表の作成</p>

この事項は、こまめな豆テストの実施や定期テストへの出題により、比較的到達度が図りやすい事柄である。これらの継続的な実施により、言葉の力の基礎力が培われると考えている。

### 3 まとめ

前述のように「3領域1事項」について3年間の間に身に付けさせたい力を述べたが、「話すこと・聞くこと・書くこと」のもっとも基本となることは、物事を「分かりやすく伝える力を身に付けさせること」＝「筋道を立てて」話したり、書いたりできることだと考えている。その根底には「日常で使われる言語」についての理解がある。特に常用漢字を読む力・書く力を身に付けさせることは、国語科としての大重要な役割であろう。国語科での基礎基本の習得は「生きる力」に密接に関係している。このような考えを念頭において、毎時間の授業を進めているところである。

## 中学校社会科【地理的分野】 - 課題解決的・作業的な学習における基礎基本の系統性

中学校社会科の指導上の課題の一つは、国語・数学・英語などと異なり、学習能力の系統的な発展性があまり明確にされていないことである。そこで、学年の発達段階に応じて、どのように社会的思考力や、資料活用の技能・表現力を深めさせるかについて、一例を提示したものが下表である。

ここでは地理的分野の課題解決的・作業的な学習を取り上げた。特に観点別学習状況の「資料活用の技能・表現」能力を、学年の発達段階に合わせて深化・発展させたものである。資料の収集・選択・分析・表現（まとめ）の諸能力や、資料を使っての理解力、思考・判断力などを、3段階のレベルにし、の数が多いほどより高いレベルの能力とした。

学年・月	小単元名	おもな学習活動	付けたい力のレベル ~
1年 6月	世界旅行を企画しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白地図又は自作の世界略地図を使用</li> <li>・10カ国程度を選び、旅行会社のパンフレットの写真の切り抜きを貼る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料（地図）表現（ ）</li> <li>・定められた資料の収集（ ）</li> <li>・資料（写真）の選択・分析（ ）</li> </ul>
1年 10月	駅弁旅行をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの駅弁のサイトを活用</li> <li>・駅弁の材料等から、金額や都道府県を予想する</li> <li>・駅弁の金額合計と旅行する都道府県数を条件に合うように設定する</li> <li>・白地図又は自作の日本地図にまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた資料の活用（ ）</li> <li>・資料を使った社会的判断（ ）</li> <li>・資料整理とまとめ（ ）</li> <li>・資料（地図）表現（ ）</li> </ul>
1年 12月	身近な地域調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形図の読み取り方の基礎を学ぶ</li> <li>・疑問点をまとめ調査テーマを選択する</li> <li>・現地調査の方法（訪問の際のアポイントの取り方も含む）</li> <li>・白地図等へのデータ記入</li> <li>・調査報告書のまとめ方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた資料の活用（ ）</li> <li>・資料を使った社会的判断（ ）</li> <li>・目的に応じた資料の収集（ ）</li> <li>・資料（地図）表現（ ）</li> <li>・資料整理とまとめ（ ）</li> </ul>
1年 3月	都道府県の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査地域（都道府県）を概観する</li> <li>・調査テーマを設定する</li> <li>・調査データ・資料の収集（統計資料・インターネット活用を含む）</li> <li>・調査結果を分析</li> <li>・レポートにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の理解（ ）</li> <li>・資料を使った思考判断（ ）</li> <li>・資料の収集（ ）</li> <li>・資料の選択・分析（ ）</li> <li>・資料の表現（ ）</li> </ul>
2年 6月	世界の国々の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象国を概観する</li> <li>・調査テーマを設定する</li> <li>・調査データ・資料の収集（統計資料・インターネット活用を含む）</li> <li>・調査結果を分析する</li> <li>・パワーポイントの活用 プрезентーションにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の理解（ ）</li> <li>・資料を使った思考判断（ ）</li> <li>・資料の収集（ ）</li> <li>・資料の選択・分析（ ）</li> <li>・資料の表現（ ）</li> </ul>
2年 12月	主題図や分布図をつくりてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ・資料の収集（統計資料・インターネット活用を含む）</li> <li>・データの検証・分析をする</li> <li>・グラフ・分布図・主題図など、目的に応じてまとめる</li> <li>・できあがった分布図や主題図を重ね合わせたりして、考察を加える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集（ ）</li> <li>・資料の選択・分析（ ）</li> <li>・資料の表現（ ）</li> <li>・資料を使った思考判断（ ）</li> </ul>